

一太郎 のすごいところガイド

by Kazutaro V.5

第5回 WINDOWS版一太郎 あらわる

いやあ、私事でなんですが、3年ぶりに新しいパソコンを買ってしまいました。5年ぶりにNECですわ。エプソンを見限ってしまいました。まあ最近のNECは気合いが入ってるからね。買ったのはPC9821As2で、IDE 240Mハードディスク、12M RAM、17 inch モニターセットで42万弱。まあ、いい買い物だったけど、おかげでボーナスはすべて吹っ飛んでしまいました（とほほ）。

As2は今までののに比べると3倍くらいは速い機種なので、Windowsもバリバリです。おかげでまだまだ先と思っていたWindowsにもハマってしまい、ソフト代で今度は借金生活です（とほほ〜）。

ちなみにWindowsってのは、従来のMS-DOSの上ののっかるソフトで、使う人に優しい様々な仕組みを持ったシステムです。Windowsに対応したソフトは一応操作が統一されるので、ソフトの習得がしやすいという利点があったり、Windows上のソフト同士でデータのやり取りができたりと、まあ便利なもんだと。でも人に優しい分、パソコンには強烈なパワーを要求するので、財布には厳しいぞ（とほほ〜）、と。そういうやつです。

で、私がWindowsに溺れている毎日を過ごしていた中、日本の誇るワープロソフト「一太郎」のWindows版が出ることになりました。何というGOODなタイミングなんでしょう。まあ本当の所は、一太郎がWindowsに対応するという事で、パソコンを買い換える気になったんですけどね。



1. 一太郎ユーザー特典

今までの一太郎ユーザーは、定価 58000 円の所を、15000 円。アウトラインフォントがついていないとはいえ、まずまずの値段だ。

さらに表集計ソフトメーカーとのタイアップキャンペーンで、ポーランドのクアトロプロが 12000 円、ロータスの 1 2 3 Win は 25000 円で買えるとあって、こりゃお得だ。

だってポーランドの正規ユーザーである私のところに 2 カ月前に来た、ユーザー割引販売でも 25000 円だったのだから。

これだけ安売り攻勢をかけられりゃ、私のように DOS 環境にこだわっていたユーザーも一気に Windows に流れ込むと見た。

2. 使ってみました

さて、さっそくインストールしてみたぞ。

辞書や外字は共通で使えるので、学習させたり登録させたりした字や作った外字がそのまま使えるのが、便利で Good だ。

アウトラインフォントも従来の物がおおむね使えるようだ。一応アップデートディスクというのがついては来たが、このディスクに対応していない楷書体のアウトラインも使えるようなので、たぶん問題ないのだろう。

速度は……、残念ながら、DOS 版より遅いと言わざるを得ない。Windows のメニュー画面から一太郎を選択して入力可能な状態になるのに、20 秒以上かかってしまう。立ち上がってからも少々ストレスを感じる。メニューを出すのに esc を押

すわけだけど、ワテンがあってから出てくるような感じなのだ。2 度目以降は、覚えているらしくスムーズに現れる（キャッシュが効いている）けどもね。

As 2 でようやくこんな状態なのだから、今までの機種ではおそらく使い物にならないだろう（って Windows 自体がましに走らないわけだけどさ）。

Windows そのものにパワーを取られているのは判る。メモリ環境をいじっていけば、ある程度の速度は出ると思う。けど、もうちょっと何とかならんかなあ〜。

3. Windows ならではの機能

さて、せっかく Windows 上で動くわけだから、Windows の特徴を生かした使い方を考えてみたい。

まず、豊富な Windows 対応のソフトが使えるということ。従来の DOS 版は、ジャストウィンドウ（以下 JW）というジャストシステム独自のシステムの上に乗っていたわけだけど、この JW に対応したソフトがない。

「三四郎」という表集計と「わらべ」というデータベースソフトがあるだけだ。これから来年にかけて図形ソフトの「花子 3」やデータベースや、色々出るようだけでも、何といっても絶対数が少ない。これに対して Windows は、アメリカ産のソフトが豊富な上（しかも安売り〜）に、パソコン通信などで様々なソフトを入手することができる。色々やってみたい人にとっては便利だね〜。

次に O L E。これは従来の DOS 版で言うところの「組み込みリンク」だ。表集計の表やグラフィック

のデータを文書中に貼り付ける。元のデータが変われば貼り付けたデータも変わるし、逆に文書中で貼り付けたデータをいじることで元のデータも変えることもできるのだ（変えないことも当然できるぞ）。

これだけなら DOS 版でもできたわけだが、これができるのは J W 対応のソフトに限られている。しかし対応のソフトの数が非常にきびし〜のだ（現状では先に述べた「三四郎」と「わらべ」だけだもんね）。Windows 環境では、当たり前みたいに、どのメーカーのソフトでもやり取りができてよしい。けっきょく、この差は、2つのウィンドウシステムを作った会社自身のパワーの違い（一ソフトウェアメーカーと巨大OSメーカー）とも言えるし、日本とアメリカの市場の規模の違いとも言える。

元々コンセプトが違うシステムを比較すること自体が強引なのかも知れないけどなあ（私が悪いが）。

話がそれてしまったようだ。お次は、マルチメディアだ。一応 Windows はマルチメディア対応を謳っているので、ビデオやサウンドの貼り付けができる。

サウンド機能を使うと、ちょっとした警告音に

「コケッ！（鶏の鳴き声）」とか「あ〜ん、いやあ〜ん（エッチ）」とかけっこう色々楽しめて Good ですぞ。

ビデオ機能も楽しそうだ。文書中に画像があって、そこを選択してやると、動画が見れる、音が出ると。まあ、使いようによっちゃ色々できまっせ。

4. 従来のユーザーは

Windows 版に乗り換えるべきか、

どうするべきか？って私はもう買ってしまいましたけどね。

まず、従来のデータは読み込めますし、Windows で作ったデータも DOS 版で読めます。つまり相互に互換性があります。辞書や外字やフォントも従来の物が使えます。つまり移行する際に難しいことをあまり考える必要はないということです。なんか当たり前の事のように、環境を変えるということは、一種、悲壮な決意が要求されることもあるのですよ。一太郎に限っていえば、それが無いと。よろしいな。

次に、今なら Windows を始める環境が整っていると。ソフトウェア同士が Windows 市場での覇権を競って、仁義無きユーザー特典という名の安売りや競合しないメーカー同士のタイアップ販売をしています。雑誌記事は Windows で氾濫し、これでもかこれでもかと Windows 台風へ向かって強風が吹きこんでいます。これに乗っかるも楽ではあります。

しかし DOS 版以上にマシンパワーが必要です。色々 Windows 独自の機能が使えて楽しいし便利ですが、字を打つだけなら必要ありません。

さあどうしますか？

一気に Windows 環境を手にするためボーナス全部（とほほ）使います？

まあ今、安いうちにソフトだけ買っておくというのも大人の選択かな？とも思いますけどね。

わたしやもう突っ走るだけです。これからソフト代が（とほほのほ〜）。

（第5回終わり）